

調査4 景気が改善あるいは悪化している要因についての主な意見

《改善要因》

- 政権が安定しているため予算執行がスムーズ。オリンピックに向けて警備監視が重要課題とされ、そのための装備開発が活発である。(製造業)
- 技術者増員で受注増となる。(製造業)
- 産業機器、インフラ関連を中心に需要旺盛。景気は当面底堅く推移するものと予測される。(製造業)
- 仕事量が増えている。(建設業)
- 受注の安定化、経費節減。(建設業)
- システム構築案件や全体的にサービス受託件数が増加。(サービス業)
- 東京都福祉保育所の助成金の運営補助が実行されたため。(サービス業)
- 同業が廃業し売上アップ。(サービス業)
- 需要増加と人手不足が相まって、一時的にせよ景気の循環は良くなってきている。オリンピックへの期待感も経済にプラスの影響がある。(サービス業)
- 少子高齢化で客数は減少のみだが、定年を迎える方も少し多くなる予想なので新規客をUPを期待している。(サービス業)
- 海外からの仕入量増加。(卸売業)
- 社内の構造改革の成果により効率が改善された。(卸売業)
- 音楽ライブのイベントの効果が大きく、新規顧客の開拓に繋がった。(飲食業)
- 電動自転車の販売好調。(小売業)
- 商品開発、百貨店業界でもハンドクラフトを見直す動きがでてきた。(小売業)
- 自動車業界では、安全装備の充実と燃費の改善を売りにした新型車を投入しており、下期に向けても引き続き市場は活性化してくるとの予測。(小売業)

《悪化要因》

- 市場全体、特にアメリカ市場が悪化。(製造業)
- 取引先の海外展開が進み、受注が減少。協力工場の資金繰り悪化により短期納期対応が難しい。(製造業)
- 受注の減少、競争激化による発注単価の低下。(建設業)
- オリンピックもあり、材料の値上がり(10~20%)の傾向にある。(建設業)

《悪化要因》

- 建築関係の後継者不足。(建設業)
- 利益率の低下。(建設業)
- リフォームコストの上昇。(不動産業)
- 人口減少による借家利用者の減少。住宅に質の向上に伴う対応が十分できないので入居率が向上しない。(不動産業)
- 東京都の受注競争が激しく採算は悪化した。(サービス業)
- 人材不足が売上減少につながっている。人件費が高騰しているにもかかわらず、請負金額は低く固定されたままである。(サービス業)
- 受注の減少。(サービス業)
- 景気は大手のみが良くて、小企業は良いとは感じない。(サービス業)
- 生徒数の減少。依然として父兄の所得が増えていないことがある。(サービス業)
- 嗜好品故に生活必需品消費優先のため、売れ行き不調。天候不順による悪影響。(卸売業)
- 海外からの仕入値の増大。(卸売業)
- 売上減少、円高で利益減少。(卸売業)
- 仕入単価の上昇傾向の中、売上単価の幅が上げきれない状況。大手競合や予算不足との理由による値引き要請がある。(卸売業)
- コーヒー等の輸入価格、乳製品の仕入価格、梱包資材の仕入価格の上昇に加え、最低賃金の上昇に伴う利益確保が難しい現状。(飲食業)
- 好不調の波が大きく、仕入値の絶えない値上がりのため、コストの確定が出来ず、2～3か月の見通しが立てにくい。(飲食業)
- ガス自由化に伴う、事業環境の不透明感によるもの。(小売業)
- 小麦粉、乳製品の材料値上げに加え、悪天候で客足が鈍っている。(小売業)
- 購買意欲の低下。宅配に係る経費の増大が気になる。(小売業)
- 百貨店業界の依存度が高く、業界の低迷がそのまま引きずられている。(小売業)
- 主要顧客である高齢者の消費鈍化。主要取引先の事業縮小による売上減少。(小売業)
- 広告媒体の変更による新規顧客の減少。(小売業)

《悪化要因》

- ドライバー不足。トラック車両(冷蔵冷凍車)の発注から納期までが長期になり増車が進まない。(運輸業)
- 人材不足で次の一手に着手できない。労働時間等の制約も重なり、事業展開に苦慮している。(運輸業)
- 主要顧客の売上減少。宅配会社、路線会社からの値上げ要請。(運輸業)